

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105081号		
法人名	医療法人 尚文会		
事業所名	グループホーム 竹山苑		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 郡山町 2570番地 1 (電話) 099-298-2161		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯 4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年8月1日

【情報提供票より】 (平成21年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18人 非常勤 0人 常勤換算	18

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 平屋建て		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有()円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / ○無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.2歳	最低	60歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	玉水会病院・植村病院・米盛整形外科・厚地脳神経外科・竹内歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の山や田んぼに囲まれた自然豊かな所にホームがあり、四季の移り変わりを感じながら過ごすことができる。中庭をはさんで2つのユニットがある。天窓と中庭から光が入り、リビングや居室は明るい。職員は入居者一人ひとりを尊重し、喜怒哀楽をともにし、豊かなサービスをしている。地域住民や家族との協力関係が充実し、明るい笑顔あふれる楽しい暮らしが展開されているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 防災について、地域住民に協力の依頼するなどの取り組みがなされ、課題は改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義や目的をふまえて、全員で自己評価に取り組み、具体的な改善点や取り組んでいきたい内容などを話し合っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表・地域住民・市担当者など、多くの参加を得て開催している。防災についての地域住民への協力の依頼などについて話し合い、推進会議の内容を具体的に活かす取り組みを行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時や電話等で何でも話せる雰囲気づくりに努め、敬老会や花見の時に、家族会を開催し、要望や意見を表す機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 玄関先や散歩時には、気軽に挨拶や会話を楽しんでいる。地域の文化祭や保育園・小学校の行事等に参加して、地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で話し合い、今までの理念を見直して地域密着型サービスとしての役割を考えて、わかりやすい事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や居間の見やすい所に掲示し、職員会議のときに理念を確認し、職員が共有して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	玄関先や散歩時に、気軽に挨拶や会話を楽しんでいる。地域の文化祭や保育園・小学校の行事等に参加して、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的をふまえ、全員で自己評価に取り組み、具体的な改善点や取り組んでいきたい内容などを話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・地域住民・市担当者など、多くの参加を得て開催している。防災についての地域住民の協力などを話し合い、具体的に活かす取り組みを行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは手続きなどや、苑便りを届けたりして、相談やアドバイスを受け、協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に入居者の様子を話したり、苑便りを毎月発行し、行事の様子などや写真を掲載し報告している。受診などは電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時や電話等で何でも話してもらえぬ雰囲気づくりに努め、敬老会や花見等の行事の時に、家族会を開催し不満や意見を聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係づくりが必要のため、職員採用時の面接は管理者・計画作成担当者も立ち会っている。新人研修も計画的に時間をかけて行い、入居者のダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に進め、職員会議で報告を行い、内容を共有している。ホーム内の勉強会も実施し、資格取得も勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加入して、研修や勉強会に参加し、他のホームの管理者や職員と交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望があれば、本人や家族と面談したり見学を勧めている。徐々に職員や他の入居者の方々と馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として尊敬し、人生の事・畑の事・切干大根・梅干し作りなど、教えてもらいながら一緒にしている。入居者から学ぶことも多く、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりとゆっくり話しをして、思いや意向を把握し家族からも情報を得て希望を叶えられるような支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意向を聞き、主治医の意見を参考に職員で話し合い本人本位の介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のケアチェックや3ヵ月毎のモニタリングで状態を把握し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と相談し、通院介助や受診支援、要望があれば買い物や墓参りなどの外出を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力病院の往診や訪問リハビリなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、希望があればその都度家族や医師と連携をとり、職員で話し合いを行ない対応を決めている。		重度化や終末期の対応について、事業所が対応できるケア方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保について勉強会などを行い徹底している。言葉かけや対応については職員が自己を振り返るなどの反省材料で意識向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを尊重しながら、起床や食事の時間など体調や希望を考慮して、その人らしい生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立について、アンケートを取り、好みの料理を把握している。調理の下ごしらえや後片付けなどを職員と一緒にやり、食事を楽しめるよう支援している。外食をすることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は決めているが、希望があれば毎日入浴できる。入浴拒否の方には、タイミングを見て声かけを行ったり清拭や足浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ・花の水かけなどの役割や、レクリエーション参加や買い物・花見などの楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望や体調に合わせて、散歩や買い物・ドライブなどに出かけている。天気の良い日は中庭でお茶を飲むなど戸外に出かける機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員で連携を取りながら見守りを行い、外出傾向の方にはさりげなく声かけし一緒について行くなど、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得てマニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。事故対策委員会も設置している。地域住民の協力については、運営推進会議の議題として話し合い、協力を依頼している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量についてはチェックしている。入居者の状態や力に応じて、とろみや刻み食など支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天窓や中庭があり明るい。ベンチやソファ・テーブルが使いやすく配置され、四季の花を飾り居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドはホームが用意し、家族と相談し使い慣れた椅子やテレビ・仏壇などを持ち込み、ぬいぐるみや家族の写真などを飾り、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。